

# 令和4年度 上田市教育行政に係る事務の点検及び評価報告書

## 上田市教育行政評価懇話会

- 第1回 令和5年7月 5日(水) 午後3時30分～午後5時30分
- 第2回 令和5年7月13日(木) 午後3時30分～午後5時30分
- 第3回 令和5年8月 8日(火) 午後3時30分～午後5時30分

上田市教育委員会

# 目 次

I	趣旨		3
II	上田市教育行政評価懇話会		
III	評価の方法		4
IV	評価の結果及び懇話会の提言内容等		
1	「上田市教育支援プラン」の推進		
①	確かな学力の育成(支援策1)	学校教育課	5
	確かな学力の育成(支援策2)	学校教育課	6
②	すべての子どもに寄り添う支援	学校教育課	7
③	豊かな心と健やかな身体の育成	学校保健給食課	8
④	学校給食施設の計画的な整備	教育総務課 学校保健給食課	9
⑤	小中学校のあり方の検討	教育総務課	10
2	安全・安心な教育環境の整備		
①	第五中学校改築事業	教育施設整備室	11
②	中学校屋内運動場照明LED化事業	教育施設整備室	12
③	学校施設の適正な営繕の実施	教育施設整備室	13
3	文化遺産の保存・継承・活用		
①	「上田市文化財保存活用地域計画」の策定に向けた取組	生涯学習・文化財課	14
②	文化財の保存と活用	生涯学習・文化財課	15
③	史跡上田城跡整備事業の推進	生涯学習・文化財課	16
④	郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を知る機会の創出	生涯学習・文化財課 博物館	17
4	生涯学習の推進と学習環境の整備		
①	上田自由大学運動等の顕彰による生涯学習推進	生涯学習・文化財課	18
②	地域とともにある学校づくりの充実	生涯学習・文化財課 学校教育課	19
③	人権同和教育・啓発の推進	生涯学習・文化財課	20
④	青少年の健やかな成長を支援する取組の充実	生涯学習・文化財課	21
⑤	公民館事業の充実	中央公民館 生涯学習・文化財課	22
⑥	図書館サービスの充実	上田図書館 生涯学習・文化財課	23
5	生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備		
①	生涯スポーツの振興、スポーツを通じた地域づくりと交流拡大	スポーツ推進課	24
②	上田市スポーツ施設整備計画に基づく施設整備の推進	スポーツ推進課	25
③	国民スポーツ大会を見据えた環境づくり	スポーツ推進課	26

## I 趣旨

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」において、各教育委員会は効果的な教育行政の推進を図り、住民への説明責任を果たしていくため、教育に関する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を毎年行うことになりました。

そのため、法改正の趣旨に鑑み、平成20年度から、目標管理制度において設定した教育委員会の重点事業について、自己点検及び自己評価を行い、上田市教育行政評価懇話会において、有識者から提言をいただいています。これらの評価の結果や懇話会における委員からの意見は、今後の教育に関する事業の改善に役立てていきます。

## II 上田市教育行政評価懇話会

令和4年度重点事業の評価について、有識者からの意見を聞くため、本年度は、7月5日、7月13日、8月8日の3回にわたって上田市教育行政評価懇話会を開催しました。

なお、委員には、上田市の教育に携わった経験があり、専門的な観点からの意見を期待できる次の7人に就任を依頼しました。

(敬称略)

氏名	略歴	備考
田畑 和秀	長野保護観察所上田地区保護司、 民生委員、真田地域協議会委員、 元神科小学校長	座長
平林 裕一	元上田市教育相談所指導主事、 元第六中学校長	副座長
小宮山 千佐	上田市博物館協議会会長代理	
平田 利江子	上田市行財政改革推進委員会委員、 上田市交流文化芸術センター運営協議会副会長、 元上田市教育委員	
町田 龍一郎	筑波大学生命環境系客員研究員、 上田市文化財保護審議会委員	
矢島 孝浩	上田市スポーツ推進委員副会長、 上小スポーツ推進委員協議会理事	
山浦 美幸	元上田市社会教育委員	

### Ⅲ 評価の方法

令和4年度重点事業の年度末における目標の達成状況について、AからCまでの3段階による評価を行いました。

#### 【総合評価】

ランク	内 容
A	目標を上回る成果があった。
B	目標どおりの成果があった。
C	目標未達成の部分があった。

### Ⅳ 評価の結果及び懇話会の提言内容等

令和4年度重点事業の評価の結果及びこれに対する懇話会の提言内容等は、事業評価シートに記載のとおりです。

# 令和4年度 事業評価シート

1-①

事業名	確かな学力の育成（支援策1）	担当課	学校教育課
当初目標	(1)すべての児童生徒にとって「わかる・できる授業」につなげる授業改善を行います。 (2)多層指導モデルMIMの活用による「読み」の向上を図ります。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	(1)授業改善の推進		
	学力向上委員会の開催（4回）		0
	授業を語る会の開催（3回）		0
	小中連携教員の配置（4校）		8,650
	(2)MIMスタート研修（7回）		0
	モデル授業・研修等の学校訪問を実施（118回）		0
目標の達成状況	(1)学力向上委員会を開催し、学力検査の分析等を行いながら、授業改善や課題の解決に取り組み、学力の定着と向上に努めました。授業を語る会では、さまざまな考え方や価値観に触れ、教員の授業改善への意識が高まり、実際の授業改善にもつながりました。また、中学校教員が小学校に出向き授業を行うことを通して、学習意欲の向上や進学不安の軽減を図りました。全国学力・学習調査における「授業がわかる」と回答した児童生徒の割合は、前年度を上回る結果となりました。		
	(2)長野県が実施する「市町村の特色ある教育を支援する教員配置事業」により、MIMに特化した教員を1人配置し、モデル校6校を中心に模擬授業や個別の配慮計画の作成支援等に取り組みました。児童が楽しみながらMIMの学習を行い、「読み」の能力、さらに学習意欲の向上につながっています。		
総合評価	B		
今後の課題等	(1)確かな学力の育成のために、学力検査の結果の把握や分析を基に授業改善に努めるほか、経験豊かな教員や同世代の教員と課題や実践方法を話し合い、教員の意識改革と指導力の向上を図る必要があります。 (2)定期的にMIM-PM（アセスメントテスト）を実践し、評価・分析を通じて必要な支援等の学習計画を立て、「読み」の向上に継続的に取り組む必要があります。また、学習につまずいた児童の個別の指導時間の確保や校内での協力体制の構築も必要です。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①学力検査において、「授業がわかる」と回答した児童生徒の割合が前年度より増えていることを評価します。教員が指導力の向上に努める時間を確保できるよう、教員の働き方改革が進むことを期待します。 ②MIMに特化した教員を継続して配置し、全市的にMIMに取り組んだことを評価します。	
	意見に対する考え方	①「わかる・できる授業」につなげる授業改善に向けては、教員同士の学び合いとともに、教材研究など教員が児童生徒に向き合う時間の確保も必要です。統合型校務支援システムの導入や業務支援員の活用などにより働き方改革を推進し、時間の確保に努めます。 ②MIMに特化した教員を配置して3年が経過する中、全市的に取り組み、児童の「読み」の能力、学習意欲の向上につながっています。各校でリーダーとなる教員の育成に努めながら、継続して取り組みます。	
今後の方針等	(1)教員同士で課題等を話し合う機会を継続して設けるなど、教員の指導力の向上や授業の改善を支援し、「わかる・できる」と実感できる授業を目指しながら、学力の定着と向上を図ります。 (2)「読み」の向上に加え、学習意欲の向上にもつながるなどの成果も見られることから、引き続き全市的に取り組み、より効果的な学習が進められるよう支援していきます。		

# 令和4年度 事業評価シート

1-①

事業名		確かな学力の育成（支援策2）	担当課	学校教育課
当初目標		GIGAスクール構想のもと、ICTを活用した効果的な授業を推進するため、教材やアプリの使用方法を支援し、教員のICT活用能力の向上を図ります。		
具体的な取組		実施状況		事業費 (千円)
		学校ICT支援員の派遣		50,518
		スクールICTスタッフの配置		29,040
		職員室無線LANの整備		3,618
		1人1台端末活用支援サイト「上田GIGAスクールサイト」の更新		0
		「GIGAスクールオンライン研修会in上田市」の開催		0
		夏季研修会の開催		0
		情報教育主任会の開催		0
目標の達成状況		<p>GIGAスクール構想により、児童生徒に1人1台の端末とクラウドが整備され、ICTの活用が大きく進んでいますが、1人1台の端末の活用状況では、学校により使用頻度に違いが見られます。</p> <p>学校ICT支援員9人を全小中学校に派遣することにより、週1回は終日校内に滞在し、ICT機器の準備、授業中の操作支援、ICT端末やアプリの活用方法の提案や研修等、教員に対するICT活用支援を行いました。また、スクールICTスタッフ7人を配置し、ヘルプデスクによる遠隔操作、夏季研修会の開催、小学校における情報モラル授業支援、プログラミング入門授業支援等の情報活用支援を行いました。</p> <p>令和3年度に開設した「上田GIGAスクールサイト」を随時更新し、授業で使える教材や各校の実践事例、操作やアプリに関する各種マニュアル、教員からの質問など掲載内容を充実し、情報共有を図りました。</p> <p>電波状況が悪い小中学校11校の職員室のWi-Fi環境を整備し、教員の1人1台端末の研究や研修、ICT支援員からの支援を職員室で行うことが可能となりました。</p> <p>長野県と共同し、ICTによる「対話的で深い学び」をテーマに、県内全域を対象にオンラインによる公開授業を実施しました。</p>		
総合評価		B		
今後の課題等		<p>(1) 持続可能なGIGAスクール構想を推進するため、継続したICT環境の整備が必要です。</p> <p>(2) 学校間、教員間による活用状況の格差を解消するため、教員のICT活用能力の更なる向上が求められます。</p> <p>(3) 授業において、ICTを使ってみる段階から、効果的に使う段階へステップアップを図る必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	学校ICT支援員及びスクールICTスタッフの活動を充実させ、教員に寄り添った支援に努めたことを評価します。		
	意見に対する考え方	令和5年度においても、前年度と同数の学校ICT支援員及びスクールICTスタッフを配置し、ICTを活用した授業や校務が行えるよう教員に寄り添った支援に取り組みます。ICT環境の整備や一人一台端末のさらなる活用の推進に継続して取り組んでいきます。		
今後の方針等		<p>(1) 教職員PCと画面投影機等を順次更新します。</p> <p>(2) ICT支援員などによる研修の充実、「上田GIGAスクールサイト」の更新と拡充を図ります。</p> <p>(3) 「対話的で深い学び」をテーマとした、ICT活用研修等を実施します。</p>		

# 令和4年度 事業評価シート

1-②

事業名	すべての子どもに寄り添う支援	担当課	学校教育課
当初目標	(1)相談体制を整備し、いじめ・不登校など悩みを抱える児童生徒への寄り添った支援を行います。 (2)通常の学級において、発達障がい等のある児童生徒も含め、すべての児童生徒にとって「わかる・できる」授業となるよう、授業のユニバーサルデザイン化を推進します。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	(1)教育相談所による全校訪問	スクールソーシャルワーカーのスクリーニング会議への参加 (25校)	0
	(2)長野大学社会福祉学部と塩田地区4小中学校がユニバーサルデザイン化の視点を取り入れた授業改善に取り組み、公開授業を実施 (33回)		0
	上記成果を全小中学校に発信 (6回)		0
目標の達成状況	(1)教育相談所による全校訪問を行い、各校の不登校・不適応対応体制を確認するとともに、支援が必要な児童生徒を確認し、来所相談、電話相談、訪問相談、訪問支援などにつなげました。 また、スクールソーシャルワーカーが出席する校内スクリーニング会議は、令和2年度では3校、令和3年度は21校、令和4年度は25校となり、重篤な状況になる前に助言や支援を行ったケースが増加しました。 (2)全校が「具体的、視覚的、肯定的」の3つを視点として授業改善に取り組み、全ての児童生徒にとって分かりやすく学習しやすい環境を整え、落ち着いた授業が展開できました。また、教員も3つの視点を意識した授業を行うことで、授業力の向上につながりました。		
総合評価	B		
今後の課題等	(1)不登校児童生徒数の増加や、悩みを抱える児童生徒を取り巻く環境の複雑化等に対し、組織的な支援や関係機関との連携強化により、状況に応じた寄り添った支援をしていく必要があります。 また、令和4年度に策定した「民間施設等に関するガイドライン」を適切に運用するため、学校、教育委員会及び民間施設が連携・協力していく必要があります。 (2)すべての児童生徒が「わかる・できる」と感じることができるよう、授業・環境面でのユニバーサルデザイン化に継続して取り組む必要があります。また、児童生徒一人ひとりの状況に応じた個別最適な学びに取り組む必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①スクリーニング会議の推進により、児童生徒が重篤な状況になる前に支援できたケースが増えていることを評価します。 ②公開授業等で、ユニバーサルデザイン化の視点に基づいた授業を実際に見て、肌で感じることで、授業改善に向けた教員の意識改革につながっていると考えます。	
	意見に対する考え	①児童生徒の抱えている課題の解決が学校だけでは難しい場合などに、スクールソーシャルワーカーが早期から支援に関わることによって、課題の背景への理解が進んだり、保護者の心理的安定につながったなどの成果が出ています。 ②教授法や教材について優れた点を実際に体感し、自身の授業に取り入れたり、他の教員にアドバイスを仰ぐことで、授業改善につながっていることから、引き続き、公開授業等を通じてユニバーサルデザイン化を推進します。	
今後の方針等	(1)教育支援センター化による連携の強化、組織的・継続的な支援を進めます。また、スクールソーシャルワーカーが参加するスクリーニング会議を推進し、関係機関の連携の強化を図り、支援を必要とする児童生徒の早期把握、環境の改善等、状況に応じたきめ細かな支援を行います。 (2)すべての児童生徒が「わかる・できる」と実感できる授業づくりや環境づくりを目指し、ユニバーサルデザイン化の推進に全市的に取り組みます。		

# 令和4年度 事業評価シート

1-③

事業名		豊かな心と健やかな身体の育成	担当課	学校保健給食課
当初目標	<p>(1) 毎日朝食を食べる児童生徒の増加を目指します。 給食だより等を活用し、朝食摂取に関する情報を家庭に周知します。 健康こども未来部と連携し、食育キャンペーンへ参加します。 (2) 児童生徒の食に関する実態調査の実施と健康状態、実態の分析を行います。</p>			
具体的な取組	実施状況			事業費 (千円)
	(1) 栄養教職員と連携し、給食だよりに朝食に関する情報を掲載(年8~10回)			0
	健康こども未来部と連携し、アリオ食育キャンペーンへ参加(1回)			0
	広報うえだ8月号に上田市の学校給食の特徴を掲載			0
	(2) 児童生徒の食に関する実態調査の実施と結果の分析			0
	生活習慣病予防検診結果の各校3か年分のまとめを作成し、全校に報告			0
令和3年度上田市学校保健統計を作成し各学校へ報告			0	
目標の達成状況	<p>(1) 教育委員会と市内小中学校の栄養教職員の連携を図り、市の食育推進に関する現状や課題を共有しました。その上で各給食施設が発行する「給食だより」に朝食に関する情報を掲載し、児童生徒や保護者に周知を行いました。 また、学校給食の取組を紹介するため、アリオ食育キャンペーンに参加するとともに、広報うえだに学校給食の特徴を掲載しました。 (2) 児童生徒の食や健康状態に関する各種調査結果を集計し、現状と課題を分析し、全小中学校に報告しました。</p>			
総合評価	B			
今後の課題等	<p>(1) 成長期にある児童生徒の健やかな身体の育成のため、朝食の必要性は以前から周知しています。保護者世代の朝食摂取率も減少しており、引き続き周知、啓発に取り組む必要があります。 (2) 各種調査から得られる児童生徒の健康課題の分析を継続するとともに、課題解決に向け、学校への情報提供にとどまらず、学校保健の中心的な役割を担う養護教諭とも連携していく必要があります。</p>			
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>児童生徒の朝食の摂取については、保護者世代の生活習慣の変化や、貧困等の視点も含めて、多角的に検証していく必要があると考えます。家庭状況もさまざまであるため、朝食の大切さについて、根気よく情報発信を続けていく必要があると考えます。</p>		
	意見に対する考え方	<p>児童生徒の健やかな身体の成長において朝食が大切であることを、継続的に情報発信していきます。生活習慣や家庭環境等の多様な視点を踏まえ、学校の養護教諭等と連携して朝食を食べない状況の把握をするとともに、情報発信する内容の充実に努めます。また、今後も健康こども未来部等と連携し、横断的な食育の推進に取り組めます。</p>		
今後の方針等	<p>(1) 児童生徒の食に関する現状を把握し、栄養教職員と連携した取組を継続していきます。 (2) 児童生徒の健康に関する各種調査結果の分析を継続するとともに、学校における健康づくりのニーズを把握して、施策を検討します。</p>			



# 令和4年度 事業評価シート

1-④

事業名		学校給食施設の計画的な整備		担当課	教育総務課 学校保健給食課
当初目標		(1) 老朽化に伴い改築を進めている第二学校給食センターについて、令和5年度2学期からの施設稼働に向けて、建設工事の着実な実施及び厨房機器・食器・食缶の購入契約の締結をします。 (2) 新第二学校給食センターにおける食物アレルギー対応を検討し、関係する学校教職員及び児童の保護者に周知をします。また、令和2年度に策定した食物アレルギー対応の基本方針を周知するために食物アレルギーの基礎知識や学校等での食物アレルギー対応について正しく理解するための講演会を開催します。			
具体的な取組		実施状況			事業費 (千円)
		(1) 新第二学校給食センターの建築主体工事、電気設備工事、機械設備工事、外構工事、工事監理業務			518,310
		新第二学校給食センターの厨房機器、食器、食缶の購入契約			0
		(2) 学校給食関係者による新第二学校給食センターにおける食物アレルギー対応検討会議の開催			0
		食物アレルギー講演会の開催			68
目標の達成状況		(1) 厨房機器は、令和2年度に公募型プロポーザルで選定した厨房機器業者と選定時の条件に基づき、購入契約を締結しました。食器、食缶についても、入札により業者選定をし、購入契約を締結しました。 一方、建設工事は、慢性的な建設作業員不足に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による工事の遅延、豪雨災害の影響により、大幅に工期を延長し、施設稼働の時期を令和5年度2学期から3学期に変更しました。 (2) 新第二学校給食センターにおける食物アレルギー対応検討会議を開催し、基本方針に沿った安全性を最優先する考えのもと、対応食材や対応内容等について検討しました。 また、広報うえだで市内の児童生徒の食物アレルギーの状況を周知したほか、アレルギーの専門医を講師として開催した講演会には約100人の市民の方が参加し、食物アレルギーの基礎知識や学校等での食物アレルギー対応を正しく知っていただく機会となりました。			
総合評価		B			
今後の課題等		(1) 改築中の第二学校給食センターについては、給食を提供する学校に工期の延長による影響が生じないための対応が求められます。 昭和63年築で老朽化が進む第一学校給食センターの改築については、第二学校給食センターの移転改築後に着手する計画であるため、今回の改築スケジュールを参考に、より長期的な視点での対策が必要になります。 (2) 改築後の第二学校給食センターにおける食物アレルギー対応について、安全を最優先とした食物アレルギー対応が実施できるよう、稼働開始までに対応策を決定し、学校の教職員及び児童の保護者に周知していく必要があります。また、食物アレルギー対応の重要性と意識を高めるために、食物アレルギーの基礎知識や学校等でのアレルギー対応について、継続的に周知していく必要があります。			
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	改築後の第二学校給食センターにおいて、食物アレルギー対応食の提供が始まることを評価します。今後、対応内容が充実していくことを期待します。			
	意見に対する考え方	改築後の第二学校給食センターにおける食物アレルギー対応の開始に向けて、学校、保護者、市教育委員会等の関係者が連携、情報共有等を行い、安全安心な給食の提供に取り組みます。また、令和6年度以降の代替食の提供等、対応内容の充実に向けた整備を進めます。			
今後の方針等		(1) 改築中の第二学校給食センターについては、工期の延長により給食を提供する学校に影響が生じないように、工事完了後から稼働までの切替を滞りなく進めるなど、関係者間の連携を図ります。 (2) 改築後の第二学校給食センターにおける食物アレルギー対応について、検討会議で決定した内容を学校の教職員及び児童の保護者に周知します。また、食物アレルギーの基礎知識や学校等でのアレルギー対応については、広報紙への掲載や専門医等による講演会の開催などを通じ、継続的に周知します。			

## 令和4年度 事業評価シート

1-⑤

<b>事業名</b>	小中学校のあり方の検討	<b>担当課</b>	教育総務課
<b>当初目標</b>	令和3年3月に上田市小中学校のあり方検討委員会が策定した「上田市小中学校のあり方に関する基本方針」について、保護者をはじめとする市民に周知し、地域ごとに説明・懇談の場を設け、子どもたちにとって、より良い教育環境の実現に向けて検討を進めます。		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	(1)「上田市小中学校のあり方に関する基本方針」の説明会 4中学校区を対象に3箇所で開催 (第二・第三中学校区、第四中学校区、丸子中学校区)	0	
	(2)小規模化の著しい学校のあり方に関する検討(西内小学校) 保護者・地域住民との懇談会の開催(3回)など	0	
<b>目標の達成状況</b>	(1)基本方針に関する地域ごとの説明会を、4つの中学校区を対象に3箇所で開催しました。(第二中学校区と第三中学校区は合同開催) (2)小規模化の著しい学校のあり方については、西内小学校において、地域住民が独自に検討組織を設置し、長年にわたり協議を重ねてきましたが、教育委員会を主体に地域とともに検討してほしいとの申し出があったことから、令和3年度以降、保護者や地域住民との懇談の場を設け、丁寧に意見交換を重ね、教育委員会においても学校の統合を含む今後の学校のあり方を協議してきました。 その結果、統合に関して、保護者及び地域住民から概ね同意を得たことから、西内小学校は令和6年4月に丸子中央小学校と統合することを決定しました。		
<b>総合評価</b>	<b>B</b>		
<b>今後の課題等</b>	学校の小規模化は今後も続くことから、子どもたちの望ましい教育環境の確保に向けて取組を継続していくことが必要です。この取組に当たり、学校の小規模化や学校施設の老朽化などの教育を取り巻く課題について、全市的な共通課題として市民に理解をいただく必要があります。 また、地域と学校が共に歩んできた歴史的経緯から、保護者や地域住民にとって統合を含む検討に向き合うことは重い課題となるため、学校の統合についての理解や合意に向けては段階的に取り組む必要があります。		
<b>上田市教育行政評価懇談会</b>	<b>委員からの意見</b>	今後も、統合を含む検討が必要になった場合には、丁寧な対応を重ねていくことを望みます。	
<b>意見に対する考え方</b>	統合を含めた学校のあり方を検討する場合は、地域によって学校が置かれた状況が異なることを踏まえ、保護者や地域住民と課題やビジョンを共有するとともに、庁内関係部局と連携を図りながら丁寧に取り組んでいきます。		
<b>今後の方針等</b>	学校が置かれた状況は地域ごとに異なることから、地域ごとに説明・懇談の場を設け、基本方針の趣旨及び学校の現状や児童生徒数の将来予測などを市民と共有し、子どもたちのより良い教育環境の確保に向けて検討を進めます。 学校の統合を検討する場合は、保護者や地域住民と課題やビジョンを共有するとともに、庁内関係部局とも連携を図りながら取組を進めます。		

## 令和4年度 事業評価シート

2-①

事業名	第五中学校改築事業	担当課	教育施設整備室
当初目標	校舎棟の実施設計業務を完了するとともに、仮設校舎及び仮設剣道場等の建設・改修を行い、仮設校舎完成後に校舎棟建設に必要な解体工事に着手します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	(1) 基本・実施設計業務の委託（令和3年度から4年度末まで）		
	校舎棟実施設計	66,198	
	(2) 校舎棟建設に向けての各種工事の実施		
	仮設校舎建設・リース（令和7年度まで）	73,680	
	仮設剣道場ほか建設・改修工事	令和5年度に繰越	
	テニスコート改修等の外構工事	9,886	
	第三棟及び部室棟の解体	37,800	
目標の達成状況	<p>(1) 基本設計に基づき、施工を配慮したうえで、デザインと技術面にわたり実施設計（詳細設計）を進め、資器材高騰の中、建築、電気、設備のバランスを見ながら機器選定をし、コスト削減に努め工事費をまとめました。</p> <p>(2) 校舎棟建設に向け、仮設校舎建設及びテニスコート改修等の外構工事を完了させ、既存建物の解体工事に着手しました。仮設剣道場ほか建設・改修工事については、関係者協議に不測の日数を要したため事業費を令和5年度に繰り越しました。</p>		
総合評価	B		
今後の課題等	校舎棟建設に必要な解体工事を予定どおり進め、新校舎棟建設工事を令和6年度末まで（2か年）に完了させ、令和7年度当初から使用可能となるよう実施していく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	大きな遅れもなく、計画どおりに事業が進んでいることを評価します。	
	意見に対する考え	引き続き、安全管理等を徹底しながら、計画どおりに改築事業が進められるよう努めていきます。	
今後の方針等	入札、契約、工事着工を確実に実施し、建設工事中の監理をしっかりと行うとともに、学校生活に支障がないよう安全管理等を徹底します。		

## 令和4年度 事業評価シート

2-②

<b>事業名</b>	中学校屋内運動場照明LED化事業	<b>担当課</b>	教育施設整備室
<b>当初目標</b>	中学校屋内運動場照明器具のLED改修を実施します。		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	真田中学校屋内運動場照明器具のLED改修工事	33,000	
<b>目標の達成状況</b>	照明器具を改修したことで学習環境の改善が図られました。また、LED照明としたことで省エネも図られました。		
<b>総合評価</b>		<b>B</b>	
<b>今後の課題等</b>	蛍光灯器具や水銀灯などの製造中止により、市内全ての小中学校の校舎棟や屋内運動場、グラウンド照明のLED改修をする必要があります。		
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	事業費を確保し、早急に対応したことを評価します。	
	<b>意見に対する考え方</b>	小中学校の校舎棟や屋内運動場、グラウンド照明のLED改修をコスト削減にも努めながら計画的に進めていきます。	
<b>今後の方針等</b>	改修工事にかかるコスト試算などを行い、事業費の削減を図るとともに、学習環境改善のため計画的に整備を進めます。		

## 令和4年度 事業評価シート

2-③

事業名	学校施設の適正な営繕の実施	担当課	教育施設整備室
<b>当初目標</b>	各学校からの営繕要望に対し、営繕実施の可否について判断の上、経費圧縮に努めながら、迅速かつ適切な事業の推進をします。		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	小学校施設修繕 59件	6,931	
	小学校施設営繕工事 52件	23,010	
	小学校施設営繕工事 2件	令和5年度 に繰越	
	中学校施設修繕 26件	5,620	
	中学校施設営繕工事 11件	3,649	
<b>目標の達成状況</b>	<p>学校要望に基づく学校施設営繕については、必要性、コスト面からの検討を加え、予算の範囲内で効果的かつ迅速、適切に実施することができました。</p> <p>また、年度途中で使用不可となった塩川小学校のプールろ過機の改修が必要となり、補正予算で対応するなど営繕の充実に努めたほか、令和4年7月の豪雨災害、令和5年1月の大寒波による緊急対応にも迅速に対応することができました。</p> <p>一方で、昨今の情勢により資材調達が困難で、機器の製作に遅延が生じたため、小学校施設営繕工事2件の事業費を令和5年度に繰り越しました。</p>		
<b>総合評価</b>	<b>B</b>		
<b>今後の課題等</b>	学校施設の多くは老朽しているため、学校運営に支障がでないよう、今後も引き続き設備の更新や適切な営繕に努めていく必要があります。また、トイレ改修や照明のLED化など、時代に即した環境整備を計画的に実施していく必要があります。		
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	学校からの要望を受け、緊急性の高いものから適切に対応したことを評価します。	
	<b>意見に対する考え方</b>	学校からの営繕要望に対し、専門知識を有する職員により、緊急性・必要性を判断し、コスト削減にも努めながら、引き続き、効果的かつ迅速、適切な営繕に取り組んでいきます。	
<b>今後の方針等</b>	生徒の安全・安心な学習環境を整えるために、学校要望に基づく営繕について、専門知識を有する職員が緊急性・必要性を現地確認し、コスト削減にも努めながら、今後も効果的かつ計画的な営繕に努めます。		

## 令和4年度 事業評価シート

3-①

<b>事業名</b>	「上田市文化財保存活用地域計画」の策定に向けた取組	<b>担当課</b>	生涯学習・文化財課
<b>当初目標</b>	作成した計画について国の認定を受けるため、文化庁との協議を行います。また、認定後には計画書の冊子等を印刷し、関係者等に配布するとともに、市民向けの説明会を開催します。		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	(1)「文化財保存活用地域計画」の文化庁認定		
	文化庁協議の実施	0	
	認定申請及び認定	0	
	(2)計画書本編の冊子・概要版の印刷製本	922	
	(3)説明会の開催（地域協議会 5地域）	0	
<b>目標の達成状況</b>	<p>(1)作成した計画内容について、認定を得るための文化庁協議を実施し、必要な修正を行いました。6月に認定に係る本申請を行い、7月22日に開催された文化審議会文化財部会において審議・答申され、同日付で文化庁長官により認定されました。</p> <p>(2)計画の概要版を作成し、本編冊子とともに印刷製本を行い、関係者や文化財所有者に配布しました。</p> <p>(3)令和5年2月から3月にかけて開催された地域協議会において、説明会を開催しました。</p>		
<b>総合評価</b>	<b>B</b>		
<b>今後の課題等</b>	計画内容をより多くの市民に知っていただき、計画の趣旨・目的を理解していただくために、さまざまな機会を捉えて周知・説明する取組が必要です。また、計画に掲げた取組や事業を着実に進める必要があります。庁内の複数課が関わる事業や住民との協働が必要な事業において、連携した取組が必要です。		
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	<p>①計画の推進に向け、市民に計画の内容を理解してもらえよう、さまざまな場面で情報発信をしていくことが大切だと考えます。</p> <p>②文化財の保存と活用に教育委員会だけで取り組むには限界があるため、庁内関係部局との連携が深まることを期待します。</p>	
	<b>意見に対する考え方</b>	<p>①計画の趣旨を広く理解していただき、文化財所有者だけでなく地域住民とも協働して文化財の保存活用を推進できるよう、今後も機会を捉えて情報発信していきます。</p> <p>②文化財は貴重な観光資源であり、まちの特色となるものです。文化スポーツ観光部や都市建設部など庁内関係部局との連携を深め、より効果的な取組となるよう努めていきます。</p>	
<b>今後の方針等</b>	上田城跡整備や日本遺産事業等において庁内関係部局と連携し、事業を進めます。また、文化財所有者や住民自治組織との連携強化を図り、取組を推進します。		

## 令和4年度 事業評価シート

3-②

<b>事業名</b>	文化財の保存と活用	<b>担当課</b>	生涯学習・文化財課
<b>当初目標</b>	(1)文化財の市指定・国登録を推進します。(2件以上) (2)文化財の積極的な活用を推進します。 文化財de文化祭の開催(2回) 日本遺産事業の推進		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	(1)国登録有形文化財(建造物)		
	登録申請に向けた調査	17	
	(2)文化財の活用		
	文化財de文化祭を開催(2回:東山古墳群、安楽寺)	500	
	日本遺産有償ガイド育成講座を開催	1,599	
	塩田地域で日本遺産補充調査を実施	924	
<b>目標の達成状況</b>	(1)文化庁の京都移転に伴い新規登録の手続きは滞っていますが、新たな登録に向けて、6件の調査や申請の準備を進めました。 (2)文化財de文化祭は、7月に東山古墳群で古墳コンサートを開催し、42人の参加がありました。また、10月には安楽寺で月影瞳さんの朗読とコンサートによるライブを開催し、126人の参加がありました。 日本遺産事業において、有償ガイド育成講座を開催しました。初級編受講者を対象とした中級編に14人の参加がありました。また、塩田地域でため池に関する補充調査を実施しました。7月には、「塩田平のため池群」が構成文化財として文化庁の追加認定を受けました。 仏像悉皆調査では、仏像76体の詳細調査を実施しました。		
<b>総合評価</b>	<b>B</b>		
<b>今後の課題等</b>	文化財の保存とともに積極的な活用を図るため、文化財de文化祭、日本遺産や山城などを活用した事業を、文化財所有者や地域住民と協働しながら進めていく必要があります。また、これらの事業について、地域的な偏りが見られるため、市域全体に広げていくことが必要です。		
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	①文化財の市指定・国登録においては、所有者の意向を丁寧に確認しながら進めていくことが重要だと考えます。 ②日本遺産有償ガイドの育成と運営の仕組みが、より整っていくことを期待します。	
	<b>意見に対する考え方</b>	①文化財の指定や国登録に向けての取組では、調査前、調査時、申請前など多くの場面で所有者と意見交換する機会があります。その都度、活用に向けた考えや指定・登録に対する意向を確認しながら丁寧な対応に努めます。 ②育成講座受講者の多くは、ボランティアガイドとして実践経験を重ねています。今後は、更なる活躍の場の創出と併せ、日本遺産事業として収益につながる仕組みについても研究していきます。	
<b>今後の方針等</b>	新たに作成し認定を受けた「文化財保存活用地域計画」に基づき、地域に残る貴重な文化財を将来に向けてより良い姿で保存するとともに、地域振興につながるような活用を積極的に推進します。 文化財所有者や地域住民に、文化財の価値を再認識してもらうために、官民協働による事業を推進します。文化財de文化祭等の市内各地での開催や地域での文化財活用事業の支援等を行い、全市的に文化財の保存活用に向けた意識の向上が図られるよう努めます。		

## 令和4年度 事業評価シート

3-③

<b>事業名</b>	史跡上田城跡整備事業の推進	<b>担当課</b>	生涯学習・文化財課
<b>当初目標</b>	史跡上田城跡の保存管理や整備の基本方針となる「史跡上田城跡保存活用計画」の策定を進めます。武者溜り整備事業を具体化するため、整備予定地の発掘調査や基本計画の策定を実施します。また、史跡上田城跡整備専門家会議や文化庁協議を実施します。		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	(1) 史跡上田城跡整備専門家会議・計画策定委員会の開催、文化庁協議	650	
	(2) 「史跡上田城跡保存活用計画」の計画案作成	1,991	
	(3) 発掘調査（旧市民会館駐車場）	5,000	
	(4) 武者溜り基本計画策定及び公園再整備費用対効果分析業務委託	令和5年度に繰越	
	(5) 古写真分析業務委託	495	
<b>目標の達成状況</b>	<p>(1) 「史跡上田城跡整備専門家会議」・「保存活用計画策定委員会」は、会議を3回開催し、武者溜り整備事業や発掘調査、保存活用計画の計画案に対する意見を聴取しました。また、11月に文化庁協議を実施しました。</p> <p>(2) 「史跡上田城跡保存活用計画」の策定について、コンサルタント会社と委託契約して計画案の作成を行い、直営で植栽調査等を行いました。</p> <p>(3) 旧市民会館駐車場の発掘調査を実施し、江戸時代のものと思われる地層や上田市公会堂に伴う石積み、地面の改変の様子などを確認しました。</p> <p>(4) 武者溜り基本計画策定及び公園再整備費用対効果分析業務について、建設コンサルタント会社と委託契約し、計画策定等を進めました。復元する建造物の位置や規模の推定に不測の時間を要したため、事業費を令和5年度に繰り越しました。</p> <p>(5) 古写真のデジタル解析を専門業者に委託し、武者溜りの一部等が写っていることを確認しました。</p>		
<b>総合評価</b>	<b>B</b>		
<b>今後の課題等</b>	<p>「史跡上田城跡保存活用計画」について、令和5年度の文化庁認定を目指し、申請に向けた協議等を進める必要があります。</p> <p>武者溜りの整備に向け、発掘調査により遺構を確認するとともに、都市公園事業として国土交通省の補助を得ることができるよう、計画案の策定や調査等を実施するほか、櫓の復元的整備に向けて資料調査や発掘調査を行い、専門家の見解を得ることが必要です。</p>		
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	市の情報発信により、上田城跡整備への市民の関心が高まっていると感じます。櫓の復元的整備に向けた資料の収集は大変なことですが、上田城跡整備が前進していくことを期待します。	
	<b>意見に対する考え方</b>	<p>出前講座やシンポジウム、パネル展の開催等を通じて、上田城の魅力を発信し、城跡整備の機運醸成に取り組めます。</p> <p>櫓の復元的整備の根拠となる古写真等の資料収集は、懸賞金制度をはじめとして、今後もあらゆる手を尽くします。併せて、こうした資料が発見できないことも想定して、現存する西櫓を参考資料として櫓の復元的整備が認められるよう、必要な調査を実施します。</p> <p>武者溜りの整備を足掛かりにして、櫓の復元的整備が早急に認められるよう、スピード感をもって、事業を進めていきます。</p>	
<b>今後の方針等</b>	<p>計画認定については、文化庁への申請スケジュールを踏まえ、的確なタイミングで協議等を行って、今後の整備事業の実施に備えます。</p> <p>武者溜り及び本丸櫓跡の発掘調査や資料調査を実施します。専門家の見解も踏まえて武者溜り整備計画案を作成し、国土交通省や文化庁と協議を進めていきます。櫓の復元的整備については、西櫓を参考資料として実施ができるよう、現地調査と資料調査を進めます。</p>		



## 令和4年度 事業評価シート

3-④

<b>事業名</b>	郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を知る機会の創出	<b>担当課</b>	生涯学習・文化財課 博物館
<b>当初目標</b>	(1) 信州上田ふるさと先人館の展示の充実と、情報発信に努めます。 (2) 市立博物館及び信濃国分寺資料館において企画展、体験教室、講座などを開催します。 (3) 発掘した文化財などの活用を図ります。		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	(1) 信州上田ふるさと先人館事業 特別展1回、「出張どこでも先人館」6回	2,742 0	
	(2) 市立博物館 企画展3回、講座10回 信濃国分寺資料館 企画展2回、体験教室1回、講座3回	634 48	
	(3) クジラ類化石発掘調査・クリーニング作業 発掘調査状況の報告会	148 25	
	<b>目標の達成状況</b>		
	(1) 赤松小三郎に関するパネルと案山子の特別展示を行うとともに、市立博物館、公民館、公文書館等と連携して「出張どこでも先人館」を実施しました。 また、寄附金により展示用モニターを購入し、今後、映像コンテンツによる紹介ができるよう展示方法の充実を図りました。 (2) 市立博物館では、夏季に上田祇園祭とまちづくりの企画展、秋季に生涯学習・文化財課と共催し、上田城櫓復元の歩みについての企画展、春季に新収蔵資料展を開催し、古文書講座や博物館講座を実施しました。 信濃国分寺資料館では、半過地域の遺跡、信仰をテーマとした企画展を開催し、合わせて体験教室や講座などを実施しました。 (3) クジラ化石のクリーニング作業を進めるとともに、市民向け発掘調査の状況報告会を開催しました。		
<b>総合評価</b>	<b>B</b>		
<b>今後の課題等</b>	(1) 子どもたちをはじめ市民に、郷土の先人に対し関心を持ってもらえるよう情報発信を進めるとともに、先人館以外の足を運びやすい場所での先人紹介の機会を増やしていく必要があります。 (2) 市立博物館及び信濃国分寺資料館は、施設の老朽化が著しく、収蔵庫も飽和状態のため、新たな施設整備の検討をする必要があります。 (3) クジラ化石のクリーニング作業を進めながら情報発信に努め、今後の評価を見定めるなかで公開に向けた研究を進めるとともに、市民の学びの教材として活用を図る必要があります。		
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	① 市立博物館、信濃国分寺資料館ともに、企画展の入場者数が前年度から増えていることを評価します。市立博物館では、観光客だけでなく市民にとって魅力的な展覧会が企画できていると感じます。入場者数増加の原因を分析し、また情報発信方法を工夫することで、さらなる成果につながることを期待します。 一方で、施設の老朽化等を踏まえると、できるだけ早く施設整備の検討をする必要があると考えます。 ② 古文書の解説は、文化財の保存に欠かすことができません。博物館で実施している古文書講座が充実していくことを望みます。	
	<b>意見に対する考え方</b>	① 今後は、新型コロナウイルス感染症の流行も落ち着き、インバウンドも含めた人の流れが活発になることが予測される中で、積極的にSNSなどを活用した情報発信を行い、魅力的な企画展の開催に努めます。 また、施設整備については、庁内関係部局との連携を図りながら進めていきます。 ② 現在、開催している解説上級者向けの古文書講座に加え、今後は庁内関係部局と連携し、古文書に興味がある若い世代を対象とした初歩的な講座を開催し、古文書解説者を育成していくことを検討します。	
<b>今後の方針等</b>	(1) 展示内容の充実を図るとともに、公民館や学校などでの展示を行い、周知と情報発信に努めていきます。 (2) 新たな施設整備が行われるまでの間も、市立博物館及び信濃国分寺資料館において、魅力ある企画展を計画するとともに、常設展示においても定期的な展示替えを行います。また市民のニーズに対応した講座などを開催します。 (3) クリーニング作業や発掘調査の進捗を見ながら可能な情報発信や公開を進めるとともに、市民向け（子ども中心）の学びの教材として活用を図るため、公民館と連携し、学習や体験活動などに取り組みます。		

## 令和4年度 事業評価シート

4-①

事業名	上田自由大学運動等の顕彰による生涯学習推進		担当課	生涯学習・文化財課
当初目標	上田自由大学創設100周年を迎えたことを契機に社会教育運動の意義を顕彰し、市民の自発的な学習活動を現在そして未来につなげるため、生涯学習シンポジウムを開催します。			
具体的な取組	<b>実施状況</b>			<b>事業費 (千円)</b>
	(1)100年記念フォーラム（生涯学習シンポジウム）の開催			
	実行委員会の開催			0
	フォーラムを有意義なものとするための事前学習会の開催			0
	フォーラム（生涯学習シンポジウム）の開催			0
	(2)「上田自由大学」紹介小冊子を作成・配布			95
目標の達成状況	<p>(1)令和3年の上田自由大学創設100周年シンポジウムのアフター大会として、市民団体と連携し、「自由大学運動100年記念フォーラム」を開催しました。            実行委員会を7回行い、全3回の事前学習会では自由大学の意義と歴史を学び、上田市内のゆかりの地籍を巡り、延べ64人の参加がありました。            フォーラムでは、上田自由大学の研究者や精神を引き継ぐ実践者による基調報告とシンポジウムが行われ、市内外、県外から94人が参加し、自由大学の精神を再認識する機会となりました。</p> <p>(2)上田自由大学を分かりやすく紹介した小冊子を実行委員の協力を得て作成し、配布しました。（2,000部）</p>			
<b>総合評価</b>	<b>B</b>			
<b>今後の課題等</b>	生涯学習シンポジウムを通じて上田自由大学の精神と社会教育活動の意義を確認することができ有意義なものとなりましたが、この精神をいかに現在そして未来の地域の社会活動として受け継いでいけるのか、引き続き、顕彰や学習活動を行っていく必要があります。フォーラムを通じて改めて課題提起された次の時代（若い世代）への継承と、自由大学の精神と現在の社会教育活動とのつながりを確認するための取組を行っていく必要があります。			
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	今回の社会教育運動の意義の顕彰を契機に、公民館と連携して、社会教育活動や公民館活動の意義の理解が改めて図られることを期待します。		
	<b>意見に対する考え方</b>	今後も、上田自由大学運動の精神・意義を顕彰し、社会教育活動、公民館活動の意義についても公民館と連携して市民とともに理解を深め、現在そして未来の学びにつながるよう取り組みます。		
<b>今後の方針等</b>	令和5年度においても市民と連携し、提起された課題をテーマとしたシンポジウム等を開催し、学習する機会を設けていきます。また、上田自由大学を分かりやすく紹介した小冊子を学校や社会教育施設等に配布することに加え、学習活動の教材として活用するなど、社会教育運動の意義顕彰を促していきます。			

## 令和4年度 事業評価シート

4-②

<b>事業名</b>	地域とともにある学校づくりの充実	<b>担当課</b>	生涯学習・文化財課 学校教育課
<b>当初目標</b>	地域ぐるみで学校を支えていく「仕組み作り」の推進と地域における交流・情報交換の支援に取り組みます。 学校支援ボランティア活動の推進を図るため、各学校で取り組む活動を紹介します。		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	(1)学校支援プロジェクト会議の開催	0	
	学校支援コーディネーター情報交換会の開催	8	
	「学校支援ボランティアコミュニティルーム」紹介冊子の作成・配布	157	
	ボランティア活動保険の加入	469	
	(2)学校支援ボランティア活動の広報（活動内容の紹介）	0	
	(3)研修活動	0	
	(4)他団体との連携による学校支援に関する検討	0	
<b>目標の達成状況</b>	(1)学校支援プロジェクト会議を4回開催しました。課題解決に向けた取組の一環として、学校支援コーディネーター等へのアンケート調査を実施し、「学校支援コーディネーター情報交換会」を開催しました。（24人参加） 活動の意義と取組を広く周知するため、市内小中学校の「学校支援ボランティアコミュニティルーム」を紹介する冊子を作成し、配布しました。（5,500部印刷） 学校支援ボランティア参加者が安心して活動できるようボランティア活動保険に加入しました。（1,339人） (2)市内小中学校の地域学校協働活動の取組をホームページで紹介しました。（3校） (3)学校支援コーディネーターとしての能力・対応力の向上を図るため、基礎研修を実施しました。また、東信教育事務所主催の研修会及び市主催の地域づくり人材育成講座へ参加しました。（全6回参加 参加者延べ15人） (4)他団体（市社会福祉協議会等）との連携によりボランティアの裾野と活動の広がりが期待できることから、関係団体との情報交換を行いました。		
<b>総合評価</b>		<b>B</b>	
<b>今後の課題等</b>	(1)各学校・地域での学校支援の体制強化・改善に向け、抽出した課題等への取組や引き続き学校支援活動の意義を広く知っていただくための取組が必要です。 (2)学校支援活動の取組の紹介により、活動の定着を図る必要があります。 (3)学校支援コーディネーターやボランティアに対する継続的な研修等の学習活動が必要です。 (4)ボランティア等の固定化・高齢化への対応策が必要です。		
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	委員からの意見	地道な取組により、学校と地域が連携する仕組みが定着してきたことを評価します。 なお、学校支援ボランティアの充実には、地域の中でのつながりが重要だと考えます。各地域への情報発信を図り、ボランティアの裾野が広がることを望みます。	
	意見に対する考え方	各学校・地域での学校支援について、引き続き、体制の強化・改善に向けた取組を行います。 また、ホームページ等での活動紹介を継続して行う一方で、より多くの方へ知っていただき、学校支援ボランティアの充実につなげるために、各公民館の活動や出前ときめきのまち講座等のさまざまな機会を捉え、地域への情報発信を行っていきます。	
<b>今後の方針等</b>	(1)学校支援プロジェクト会議の充実を図り、地域ぐるみで学校を支えていく体制の強化・改善に向けた交流会等を実施します。 (2)学校支援活動の推進と定着を図るため、活動紹介を継続します。 (3)公民館職員を含む学校支援コーディネーター向け各種研修への参加を通して、コーディネーターとしての資質と意欲の向上を図ります。 (4)学校支援活動の裾野と活動の広がりを持たせるため、他団体との連携について調査・研究を進めます。		

## 令和4年度 事業評価シート

4-③

事業名	人権同和教育・啓発の推進	担当課	生涯学習・文化財課
当初目標	(1)「上田市人権施策基本方針」に基づく人権同和教育・啓発を推進します。 (2)人権尊重の精神が日常的に発揮できる講演会・研修会等の事業を実施します。		
具体的な取組	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	学校人権同和教育の推進	4,445	
	地域人権同和教育の推進	3,911	
	社会教育団体等人権同和教育の推進	271	
	企業人権同和教育の推進	200	
	人権に関する市民意識調査	1,126	
目標の達成状況	上田市人権啓発推進委員会において、書家の金澤泰子氏・翔子氏を講師に迎え、「人権を考える市民のつどい」を開催しました。約800人が参加し、人権について考える良い機会となりました。 また、上田文化会館を会場に「うえだ人権フェスティバル」を開催し、人権作品の表彰や作品発表、シンガソングライターの伊藤ひよりさんによる講演会を行いました。(延べ456人参加) 上田市企業人権教育連絡会において、新人研修や役員研修等の開催方法を工夫し、オンラインと参集方式を併用するなど多くの方が参加しやすい方法で行い、企業人権の啓発に努めました。 また、市民2,000人を対象に、5年に一度実施している「人権に関する市民意識調査」を行い、市民の人権意識の動向を調査しました。3月末に報告書を関係機関に配布しました。		
総合評価	<b>B</b>		
今後の課題等	いまだに残るさまざまな偏見や差別、多様化する人権課題に対して、今後も、市民の人権尊重の意識を高めるための啓発活動を継続して進めていくことが重要です。 市民一人ひとりの人権が尊重され、日常生活の中で人権に配慮した具体的な態度や行動に移せるような、有意義な講演会や研修会等を企画・実施し、人権同和教育と啓発を着実に推進していく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	教育・啓発活動に地道に取り組んでいくことが、5年後、10年後の成果につながると考えます。発信方法を工夫し、幅広い世代の方々に届く活動となることを期待します。	
	意見に対する考え方	発信方法を工夫しながら、幅広い世代の方々に届く人権同和教育と啓発の推進に取り組み、引き続き市民の人権意識の向上に努めていきます。	
今後の方針等	講演会や研修会の開催は、市民意識調査の結果からも実施方法として有効であると認められ、これまでどおり教育と啓発活動の中心に据えて推進します。 また、ICTの活用など、一人でも多くの方々に参加していただける方法を引き続き工夫していきます。広報うえだ・行政チャンネル・ホームページでの発信も含め、あらゆる世代の方々に対応できる啓発活動を実施していきます。		

## 令和4年度 事業評価シート

4-④

<b>事業名</b>	青少年の健やかな成長を支援する取組の充実	<b>担当課</b>	生涯学習・文化財課
<b>当初目標</b>	(1) 子どもの成長に重要な体験活動や集団遊びに触れる機会を増やすため、モデル的な自然体験活動の実施や地域（自治会等）単位の体験活動の支援をします。 (2) 子どものインターネットの利用状況が課題とされる中、適正利用の啓発に取り組みます。 (3) 青少年の健全育成と社会参加の観点から、地域における若者の居場所づくりを調査・研究します。		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	(1) 幼児期の子どもを主な対象とした、地域の自然体験事業	261	
	子ども会育成連絡協議会との連携による自然体験活動の促進	354	
	(2) インターネット・スマートフォン適正利用啓発リーフレット作成・配布	134	
(3) 地域における若者の居場所づくりの調査・研究	0		
<b>目標の達成状況</b>	(1) 幼児期の子どもを主な対象とした、地域の自然体験事業を実施しました。 「グングンからだ遊び（市民の森）」（6月5日 幼児・小学生14人、大人10人） 「親子でグングン山さんぼ（烏帽子岳）」（11月6日 小学生11人、大人10人） 「親子でグングン焚き火クッキング」（3月11日 幼児・小学生12人、大人9人） 子ども会育成連絡協議会との連携による自然体験活動を実施しました。 「のびのび川遊び体験教室（浦野川）」（7月9日 幼児・小学生31人、大人12人） 「のびのび秋のアウトドア遊び体験」（10月22日 幼児・小学生31人、大人21人） 「冬の自然体験教室（菅平高原）」（2月18日 幼児・小学生9人、大人8人） 体験活動支援事業補助金の交付 20団体 (2) インターネット・スマートフォン適正利用啓発リーフレットに、児童生徒の利用実態、適正利用のためのルールづくりの方法を掲載して作成し、市内小中学校の全児童・生徒等へ配布しました。（19,000部） (3) 地域における若者の居場所づくりの調査・研究を実施しました。 市内のこども食堂を訪問、高校生ボランティアと懇談しました。 市民団体が運営する子どもの居場所を見学しました。		
<b>総合評価</b>		<b>B</b>	
<b>今後の課題等</b>	(1) 子どもの頃の体験活動等の経験は、その後の成長に良い影響を与えているとの調査研究が報告されています（令和2年文部科学省）。保護者や地域の大人に体験活動の重要性を知ってもらい、子どもたちの体験活動の機会を増やしていく必要があります。 (2) インターネット・スマートフォンの適正利用については、学校、保護者、地域の連携を進めるとともに、未就学児を持つ親への啓発について、庁内部局と連携し情報交換を進めて行く必要があります。 (3) 地域における若者の居場所づくりの調査・研究を継続して実施していく必要があります。		
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	さまざまな体験活動を企画し、多くの子どもたちの参加につながっていることを評価します。	
	<b>意見に対する考え方</b>	令和2年の文部科学省調査研究では、体験活動について、自然体験を主にしながら「社会体験」、「文化的体験」、「遊び」、「読書」、「お手伝い」にも着目して、子どもたちにとって必要な体験であると報告されています。多様な体験を土台とした子どもの成長を支える地域の環境づくりに、地域で積極的に取り組んでいただけるよう、情報提供等の啓発活動を進めていきます。	
<b>今後の方針等</b>	(1) 体験活動の重要性を学ぶ機会を継続的に作ります。自治会単位の育成会の体験活動が増加するよう支援します。 (2) インターネット・スマートフォンの適正利用について、庁内部局と連携し、情報交換を進めるとともに、啓発リーフレットの内容を工夫し、リーフレットの活用が家庭で図られるよう努めます。 (3) 地域における若者の居場所づくりや社会参加体験の機会提供について、調査・研究を進めていきます。		

## 令和4年度 事業評価シート

4-⑤

<b>事業名</b>	公民館事業の充実	<b>担当課</b>	中央公民館 生涯学習・文化財課
<b>当初目標</b>	(1) 市民向けオンライン講座等を開催します。 (2) 各分館に対する情報提供及び相談窓口の開設をします。 (3) 公民館情報の発信強化に向けた研修会（2回）、Facebook担当者情報交換会（1回）、Facebookのスキル向上に向けた研修会（1回）を開催します。		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	(1) オンライン形式による公民館講座等の実施（35回）	0	
	(2) 分館活動の手引きを作成し、各分館に配布	279	
	公民館ごとに分館に対する情報提供を行うとともに、相談窓口を設置（相談件数692件）	0	
	(3) 公民館報づくりや広報活動に関する研修に参加（2回）	0	
	主事会においてFacebookに関する職員研修会を開催（1回）	0	
	館長会や主事会において、情報発信に関する意見交換を実施（随時）	0	
<b>目標の達成状況</b>	(1) オンライン形式による公民館講座等を開催し、コロナ禍における学習機会の多様化を図ることができました。また、高齢者を対象としたことぶき大学のオンライン講座では、自宅で視聴できない生徒をフォローするために、公民館で少人数で視聴できる機会を設けました。 (2) 新型コロナウイルスの感染状況を踏まえた事業の実施可否の判断等、分館役員からのさまざまな相談事項に対して、必要な情報提供や助言など、きめ細やかな対応を行い、コロナ禍における分館活動の推進を支援することができました。 (3) 公民館情報の発信強化のために、公民館報等に関する研修会への参加やFacebook職員研修会の開催、意見交換会を通じて、職員の情報発信スキルの向上を図ることができました。		
<b>総合評価</b>	<b>B</b>		
<b>今後の課題等</b>	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行し行動制限が緩和されましたが、基礎疾患があるなど重症化リスクのある人も公民館を利用するため、引き続き基本的な感染対策に配慮する必要があります。 コロナ禍において、公民館事業や地域の分館事業は中止や延期を余儀なくされましたが、分館役員の交代やノウハウの喪失等で、分館事業の再開が困難になることが懸念されます。		
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	① オンライン形式による講座等の開催だけでなく、「市民の社会教育を推進する拠点」、「市民が集い学ぶ場」としての公民館の役割を大切に事業が推進されることを望みます。 ② 新型コロナウイルス感染症の流行により地域の分館事業の多くが中止となっていたことで、事業の再開ができていない事例がでてきています。各地域の活動が再び活発になるような支援を望みます。	
	<b>意見に対する考え</b>	① コロナ禍における感染対策の一つとしてオンライン形式による講座を実施しましたが、インターネット環境があれば遠隔地からでも学べるというメリットがあり、多様な学習形態の一つとして有効でした。 「市民の社会教育を推進する拠点」、「市民が集い学ぶ場」としての公民館の役割を基本に、オンラインも活用しながら、学びと交流を通じた社会教育の活性化に取り組んでいきます。 ② コロナ禍における行事の自粛や役員の交代等により事業の実施が困難となっている分館もあることから、分館に対する相談体制を充実するとともに、公民館と分館共催による行事等を通じた分館同士の交流促進や軽スポーツ用品の貸出等により、分館活動の再開、活性化を支援していきます。	
<b>今後の方針等</b>	利用者の安全を確保するために、手指消毒剤の設置や定期的な換気の呼びかけなど基本的な感染対策を引き続き実施します。 分館事業の円滑な実施に向けて、市における感染対策等の情報提供や相談窓口の設置、分館事業に対する公民館備品の貸し出しなど、分館活動を積極的に支援していきます。		

# 令和4年度 事業評価シート

4-⑥

事業名		図書館サービスの充実	担当課	上田図書館 生涯学習・文化財課
当初目標		<p>「地域の身近な情報拠点として、くらしと学びに役立つ図書館」を基本理念とし、その推進のため図書館サービスの充実を図ります。</p> <p>(1) 電子図書サービス導入 (2) 中高生向けサービスの充実 (3) 職員の資質向上</p>		
具体的な取組		実施状況		事業費 (千円)
		(1) 長野県と市町村が協働して進める電子図書館への参加と運用方針の決定		0
		(2) 図書館利用が減少する中学生・高校生を対象としたサービスの充実		0
		(3) 各種研修会への参加と情報の共有		31
目標の達成状況		<p>(1) 市町村と長野県による協働電子図書館事業（デジとしよ信州）に参加。各館での受付事務や広報等の事前準備を行い、8月5日に事業をスタートしました。（上田市の利用登録者数：883人、貸出件数：4,534件）</p> <p>(2) 各図書館において、中高生を対象としたYA（ヤングアダルト）コーナーを設置し、小説をはじめ趣味の本、進路に関する本など、さまざまなおすすめ本を紹介しました。また、上田地域の7つの高校にYAコーナー及びデジとしよ信州のポスター掲示を依頼し、事業周知を図りました。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加を見送った研修会もありましたが、県立長野図書館等の主催による研修会（オンライン含む）への参加や館内研修を開催し、スキルアップに努めました。（15回、延べ120人）</p>		
総合評価		B		
今後の課題等		<p>(1) 事業開始当初と比べ利用登録者数及び貸出冊数が低調な推移となっていることから、更なる事業の周知を図る必要があります。</p> <p>(2) 小・中学校図書館とはエコールのネットワークで結ばれており、この活用による利用促進を図る必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>① 電子図書サービスは、費用対効果を市民と共有していくことが必要だと考えます。また、電子図書の形態が今後変わっていくことも想定されるため、アンテナを高くしてその方向性を確認しながら電子図書サービスを進めていくことを望みます。</p> <p>② 周知の方法を工夫することで、中高生の図書館利用が増加することを期待します。</p>		
	意見に対する考え方	<p>① 電子図書サービスの電子書籍の費用は紙の書籍より現在は割高ですが、日々価格が変動していることから、今後は安価となっていくことも考えられます。デジとしよ信州の運営においては、電子書籍の費用面についてもホームページ等で市民へお知らせしていくことを検討します。また、長野県との協働事業という枠組みに囚われることなく、電子図書関連等の社会動向を見据えながら、電子図書サービスを進めていきます。</p> <p>② 真田図書館では中学校が近くにあるという生活動線の良さもあり、ライトノベルなどを目に留まりやすく展示することによって来館者数が増えた実績があります。この様に各図書館で利用促進につながった事例を参考にするなど、より中高生が利用したくなる図書館になるよう工夫していきます。</p>		
今後の方針等		<p>(1) 各種媒体による周知や利用登録促進月間の実施、またデジとしよ信州の体験コーナーを上田・丸子・真田の各図書館と情報ライブラリーへ設置するなど、利用促進に向けた取組を行います。また、社会動向を見据えながら、電子図書サービスを進めていきます。</p> <p>(2) 児童生徒に向けたさらなるエコールの周知や学校図書館との情報共有を図り、利用促進につなげていきます。また、高校生の利用促進に向けても、より多くの本を高校へ団体貸出できる仕組みづくりや、エコールの周知等を高校とともに進めていきます。</p>		

## 令和4年度 事業評価シート

5-①

<b>事業名</b>	生涯スポーツの振興、スポーツを通じた地域づくりと交流拡大	<b>担当課</b>	スポーツ推進課
<b>当初目標</b>	(1) だれもがスポーツに親しむ機会を充実します。 (2) 障がい者スポーツを推進します。 (3) トップアスリートとふれあう機会を充実します。 (4) 総合型地域スポーツクラブの活動を促進します。		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	(1) 各種スポーツ大会・教室等 (22回・39教室)	9,995	
	(2) パラスポーツの体験を通じた障がい者と健常者との相互理解を深める事業「あすチャレ!School」 (小中学校4校11クラス)	120	
	(3) 夢を持つことの大切さを伝える「夢の教室」事業 (小学校6校10クラス)	755	
	ブリリアントアリーズとの連携 (上田市PR動画・応援ダンス作成等)	0	
	(4) 総合型地域スポーツクラブと連携した事業 モールウォーキング (12回)・健幸フェア (1回)・親子スポーツフェア (1回)	0	
<b>目標の達成状況</b>	(1) 新型コロナウイルス感染症の感染防止策を講じながら、目標を上回る事業を実施し、市民が日常的にスポーツに親しめる環境づくりに取り組みました。 (2) (3) 「あすチャレ!School」、「夢の教室」事業を通じ、障がい者スポーツの推進、トップアスリートと触れ合う機会の充実を図ることができました。 また、ブリリアントアリーズと連携した上田市PR動画・応援ダンスの作成やスポーツ少年団への教室開催、公式戦ホームコート会場確保・広報等の支援を行いました。 (4) 市内4つある総合型地域スポーツクラブと連携して新たに「親子スポーツフェア」を開催するなど、相互の連携と資質向上につなげるとともに、各クラブへの支援と市民の体力・健康づくりの機会創出が図られました。		
<b>総合評価</b>	<b>B</b>		
<b>今後の課題等</b>	(1) (2) 誰もが、気軽にスポーツに親しみながら体力・健康づくりができるよう、実施方法や広報など時代に合わせ見直しをする必要があります。 (3) ブリリアントアリーズなどトップレベルの競技者や指導者と接することで、競技意識の向上やスポーツへの関心が高まる取組が重要です。 (4) 総合型地域スポーツクラブは、会員数減少、自主財源の確保、次世代の担い手育成などの課題を抱えていることから、安定的に自主運営が行えるよう事業運営に対する協力や広報などの支援をする必要があります。		
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	「あすチャレ!School」や「夢の教室」などの子どもたちが体験できる機会が充実していくことを望みます。	
	<b>意見に対する考え方</b>	多くの子どもたちがトップアスリートと接する機会の充実が図られるよう、スポーツ関係団体とも協力しながら事業を実施していきます。	
<b>今後の方針等</b>	(1) (2) スポーツ関係団体や庁内部局と連携し、魅力あるスポーツ教室や大会・イベント開催を検討するなど、参加者拡大に向けて取り組んでいきます。 (3) 学校やスポーツ関係団体と連携を取りながら、教室開催などを含め、多くの方がトップレベルのスポーツに触れる機会の提供に努めていきます。 (4) 各総合型地域スポーツクラブの持続的発展が、生涯スポーツの振興や地域の活性化につながるよう、各クラブの取組を支援していきます。		



## 令和4年度 事業評価シート

5-②

<b>事業名</b>	上田市スポーツ施設整備計画に基づく施設整備の推進	<b>担当課</b>	スポーツ推進課
<b>当初目標</b>	(1) 新テニスコート用地造成工事、クラブハウス設計を実施します。 (2) 新体育館の整備に向け、教育委員会としての方向性を協議します。 (3) 老朽化したスケート場のあり方について検討します。 (4) スケートボード場など、新しい施設整備ニーズに対応します。		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	(1) 新テニスコート用地造成工事、クラブハウス設計業務	270,257	
	(2) 課内での検討会議を実施し、西部地域市政懇談会において市の現状を説明	0	
	(3) 令和5年度をもって廃止する方針を全地域協議会に報告	0	
	廃止後の施設利活用について豊殿まちづくり協議会と協議	0	
	スケート場廃止後のスケート教室について、全小学校に意向調査を実施	0	
(4) スケートボード利用者の意見を参考に、古戦場公園内の使用されていない駐車場を「スケボー広場」として開放	0		
<b>目標の達成状況</b>	(1) 新テニスコート用地造成工事に着手、クラブハウス設計業務に着手、完了しました。 (2) 課内で検討会議を開催しましたが、教育委員会としての方向性を出すまでには至りませんでした。 (3) スケート場廃止に向け、関係する団体への説明が完了しました。 (4) スケートボードを安心して利用できる場所を提供することができました。		
<b>総合評価</b>	<b>B</b>		
<b>今後の課題等</b>	スポーツ施設の新設、大規模改修の要望が多く寄せられる中、「上田市スポーツ施設整備基本構想・整備計画」を踏まえて施設整備を進めていますが、財源の確保が最も大きな課題となっています。		
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	古戦場公園内にスケボー広場を整備したことを評価します。今後も、子どもたちが屋外で遊ぶことができる場所が整備されていくことを望みます。	
	<b>意見に対する考え方</b>	第二次上田市スポーツ推進計画に掲げる「生涯スポーツ社会の実現」に向けて、子どもたちの運動機会の充実を図ることは非常に大事な点です。引き続き、庁内関係部局と連携し、気軽に運動ができる環境の整備に取り組みます。	
<b>今後の方針等</b>	補助金や起債、基金の活用など財源の確保に努め、施設整備を進めます。		

## 令和4年度 事業評価シート

5-③

事業名	国民スポーツ大会を見据えた環境づくり	担当課	スポーツ推進課
当初目標	(1) 競技力の向上と機運の醸成を図ります。 (2) 会場予定地の中央競技団体視察受入を円滑に進めます。		
具体的な取組	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	(1) (一財)上田市スポーツ協会を通じた長野国スポ等競技力向上対策事業の補助 (12団体)	2,580	
	全国大会等出場奨励金の交付 (41件)	850	
	スポーツ協会と連携して各種スポーツの親子体験会を開催 (2回)	0	
	(2) 市内4競技会場の視察受入 (ラグビーフットボール、軟式野球、ハンドボール、ソフトテニス)	0	
目標の達成状況	(1) 競技力向上を図るため、上田市スポーツ協会を通じて事業補助を行いました。 また、国民スポーツ大会市内開催競技のほか、各種スポーツの親子体験会をスポーツ協会と連携して開催し、競技人口拡大と大会PRを実施しました。 (2) 市内で開催が予定されている4競技の中央競技団体による視察が行われ、競技会場や競技運営計画等について指導・助言を得ることができました。		
<b>総合評価</b>	<b>B</b>		
今後の課題等	引き続き、第82回国民スポーツ大会開催に向け競技力向上を図るとともに、競技会場・設備の整備、競技運営に係る準備業務を着実に進める必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	競技力向上を図るため、事業費を確保し、事業補助や奨励金の交付に取り組んだことを評価します。継続した応援体制になることを期待します。	
	意見に対する考え方	上田市に関係する選手の活躍は、市民に夢と感動を与え、市民がスポーツに関心を持つ大きなきっかけとなるものです。引き続き、奨励金等の経済的支援を実施し、選手が競技に取り組む環境の充実に努めます。	
今後の方針等	国民スポーツ大会の会場となる古戦場テニスコートの整備を遅滞なく進めるとともに、競技団体を通じた競技力向上支援、関係機関と連携した各種計画の策定、市民への機運醸成に向けた啓発・広報活動等に取り組んでいきます。		